

---

# 年少詩

勝

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

年少詩

### 【Nコード】

N8988C

### 【作者名】

勝

### 【あらすじ】

少年院での大切な日々を忘れないために書いた詩です。この詩には色々な思いや考えが詰まっています。少しでも思いが伝われば嬉しいです。また、非行を辞め改善してくれる人が出れば嬉しいです。是非読んでください。

この詩は作者が実際少年院に入院し、感じた事を詩に変えてみました。

最初は少年院に来て、少年院に来た事でやる気を無くしている人、逆に少年院に来てしまったからには頑張つて更生する人、反省をしない人等、沢山いました。作者は非行をして少年院に入った事をどう思い、どう考えて、どう受け止めて生活していくかによって少年院にたいする思いが違ってくると思いました。

では一作品目を読んで下さい。

考え一つで

年少も（少年院）

辛くも我に

花咲く物語り

二作品目は作者が少年院で非行を反省して自分自身の人生を振り返って考えた詩です。

では二作品目を読んで下さい。

過去を過ちと知り

過ちは過去と知り

今までを過去として

新しく生きる今日と日を

三作品目は自分のせいで怪我を付けてしまった被害者への思いを詩にしました。

体の傷は治るけど

心の傷は治らない

何にも知らずにやってきた

今の僕には謝ることしか出来ません

そんな自分が見にくいです

何をやっても許されない

そんな事は当たり前

何があっても忘れない

貴方の事を忘れない

四作品目は作者が集団寮に馴染めなく、寮生と喧嘩をして、単独室で頭を冷やし反省しているときに窓を見ながら思った詩です。

怒りに満ちたこの我を

優しく包むセミの声

鉄格子の隙間から

幾度となく聞こえてる

聞いてる間に我反省

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8988c/>

---

年少詩

2011年1月21日16時05分発行